

た。この特徴はヌリトラノオの特徴と原則的に一致する。よつて、*Asplenium* に *Euasplenium* とは別にカミガモシダおよびヌリトラノオを含む一群カミガモシダ群 *Oligophlebium-type* の存在を再確認する。この場合コウザキンダの所屬が問題になるが多細胞毛を生ずる性質があることにより、一応、カミガモシダ群に含めてその亜型とし、造精器の *Euasplenium* 的形狀からこれら両群の中間に位置するものとする。

(to be continued)

□オールドビス産陸上植物の発見 R. KOZŁOWSKI & P. GREGUSS: Discovery of Ordovician land plants. (Prelim. comm.) Acta Palaeontologica Polonica, Vol. IV. No. 1: 1-9, Pl. I-IV. 1959.

著者の1人(KOZŁOWSKI, ポーランドの地質学者)はポーランドのある地区のオールドビス紀の動物化石の研究中に異様の植物化石を発見し、これを著者の他の1人(GREGUSS, ハンガリアの植物学者)に鑑定を依頼した所、後者はこれを最も原始的な陸上植物と判定した。

産地は Zakroczym 附近で石灰石中に他の動物とともに埋入せられたもので、この石灰石はスカンジナビア地方から氷河によつてポーランドに運ばれたものと考えられて“Ostseekalk”と呼ばれたもので、その中に含まれている動物化石、とくに筆石類の *Orthograptus gracilis* により Saunja horizon と呼ばれる上部オールドビス紀に当るものと考えられている。問題の植物は長さ 2-3 mm の微細な棒状のもので、表面に厚膜の表皮細胞があり、一部に根毛と思われるものがあるが、気孔は見えない。中心に通道組織があり、所々に生殖器官と思われる部分が見える。本体は棒状であるが、分枝の状態に2型が区別され、単軸分枝するものを *Musciphyton*、二又分枝するものを *Iepaticaeophyton* と名づけて区別する。

これらはその構成上から見て陸上植物とみなすべきである。現在知られている最古の陸上植物はデボン紀産の *Psilophyta* であるが、それよりも一層単純な構成を有するものが、更に古い時代のオールドビス紀にあつたことは陸上植物の系統を知るに重要な貢献といえる。これらは“*Prosilophyta*”とでも称すべき1群をなすものであろう。

なおこれらの化石に混じて藻菌類に属すると思われる菌糸も認められた。

(小倉 謙)